

今語り継ぐ遠近（おちこち）巡り

巡りゆく「近江大津」の夢のあと



第1弾 瀬田東のまち歩き

古代・近世・昭和を色濃く残すまち瀬田東

古代、国づくりのため、人々のパワーが結実した「瀬田丘陵生産遺跡群」は、「ものづくり日本」の原点である。これらは、人の心を捉えて地域住民の誇りとなり、実行力のパワーとなって古代製鉄炉や穴窯や鷗尾を復元させた。訪れた人々は、1351年前（667）へ、タイムスリップを楽しむことができる。

魅力満載 QRコードを検索しスマホで楽しくまち歩き





大津市瀬田東マップ



1. 八坂神社

八坂神社がある場所は、かつて大萱村にあった山林原野でした。

延宝3年に京都の役人が溜池や用水路、農道を築いて開墾を行い45戸の集落として発足しました。当初は大萱新田、または月輪新田と呼んでいましたが、明治7年に月輪村となりました。八坂神社は新田開発時に京都祇園社より「牛頭天王」を勧請し祀ったのがはじまりです。



2. 立場跡と月輪池・山ノ神池

東海道五十三次, 参勤交代の往来が絶え間ない道でした。徳川家光公が整備された街道であり、両側に松の木が植えられ、立場は月輪池沿いに設けられた。

旅人や牛馬、駕籠かきの休憩所として栄え、湯茶を提供していたところです。



月輪池・山ノ神池

中世、藤原兼実（月輪殿）の荘園の時代に築堤されたと伝わる。灌漑用水池として利用され、葛原、新ノ池のほか大萱の田地約55町歩を潤す。





3. 月輪寺 がつりんじ

この寺は旧東海道に面しており、大津宿と草津宿の間にあることから近くに「立場」や「お茶場」もあり、旅人の休憩所として使用されました。大名、皇族、文人の書画や、徳川十四代将軍家茂いえもちの下賜かしされた「月輪寺」の寺号の額があります。

また、慶長四年有栖川宮熾仁親王ありすがわ みやたるひとしんのう、皇女和宮、明治天皇が立ち寄られた時の碑もあります。



徳川十四代将軍家茂いえもちの
下賜かしされた扁額



4. 超明寺

貞亨4年（1687）に、了空上人の開基した寺院です。「梵鐘」ぼんしょうは文久3年（1863）
鑄造です。今も本堂内脇廊に設置されている「喚鐘」かんしょうは、町内の火の見櫓みやぐらに上げられ、村人及び近隣の人々の警鐘としてその任を果たしました。今も古喚鐘として有名です。



寺宝の超明石





5. 新福寺

宝国山清浄光院新福寺は浄土宗の寺院です。1673年の大萱新田村の開村に備え、縁心寺（膳所）の差配により常善寺（草津）の別園であった塔頭「新福寺」という古い寺号を譲り受けて、月輪新田に創建された。



6. 月輪南流遺跡

7世紀後半、おうみおおつのみや近江大津宮の時代にせたきゅうりょう瀬田丘陵では須恵器や、すえき製鉄の生産が始まりました。ここつきのわなんるいせき月輪南流遺跡では、須恵器つくりに加えて、製鉄も行うようになりました。製鉄は源内峠遺跡で始まり、当地で両工人が、協力し合ったのではと考えられます。近江の製鉄は鉄鉱石を原料とすることに特徴があります。おそらく朝鮮半島からやって来た渡来人たちの最新技術が導入されたのでしょう。この生産遺跡は北へ北へと、木炭の原料となる森林を切り開き、奈良時代には木瓜原遺跡や野路小野山遺跡などの大生産遺跡に引き継がれていきました。このきっかけとなったのが、月輪南流遺跡なのです。これらの生産が初めて同時に行われた重要な遺跡です。



つきのわ

7. 月輪大池

この池は、新田開発延宝2～4年（1674～1676）、灌漑用水ように築堤された。寛政12年（1800）大池の拡大と大改修に伴い、龍王神社の祠を建てました。貯水量は30万トンある。また、平成10年（1998）には当池の東側を近隣住民の憩いの場として月輪大池公園（8.950㎡）が造られました。



みずとりけんかじょう

8. 水取喧嘩場

延宝年間（1673～81）に大萱新田が誕生した時、新田に水源がないことから分水器「準泥樋」（ジュンデイヒ）を設けた。大萱、大萱新田（現在の月輪）、新浜の3村の立ち合い場所と定められたが、谷が浅く水の絶対が少ないため「水争い」の種になり、このような名前が付けられました。





9. 源内峠製鉄遺跡

663年「日本」という国が誕生したころのこと。それまでは朝鮮半島から供給に頼っていた鉄を、国内で作り出すようになり、その一つが瀬田丘陵に設けられました。

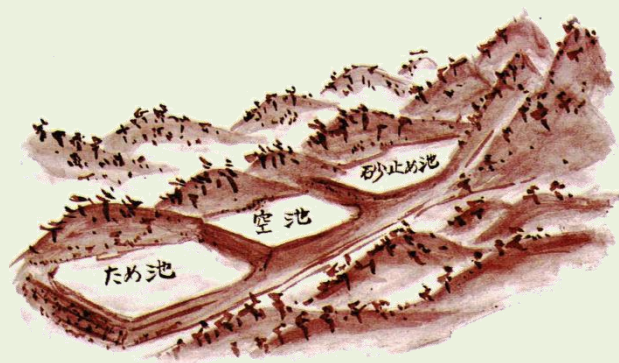
源内峠遺跡、野路小野山製鉄遺跡からなる史跡瀬田丘陵生産遺跡群である。ここで作り出された鉄は、近江大津宮、紫香楽宮など都の建設に必要な物資をはじめ、暮らしを支える物資の素材になっていた。源内峠遺跡で発見された三基の製鉄炉は、いずれも炉の下の構造が異なっている。より効率よく鉄を作る努力がなされているかを示している。



いしひろいけ 10. 石拾池（通称：大萱大池）

この池は享保21年(1736)膳所藩主本多公許しを得て築堤に着工。元文2年(1737)に本多公より手伝い人夫5日間で816人が提供され、領主、住民一体となって完成したもので、三段方式を形成し、土砂を止める砂留池、急激な増水を止める空池、そして本池のため池となり、灌漑用水池の代表的な形式を有している。この池の水利範囲は広く現在の国道1号線を越え萱野神社周辺の田んぼを潤していた。

池の大きさは安永7年(1778)の明細帳には、東西85間(約153m)南北98間(約176m)と、記されています。



砂防と灌漑用水とを兼ね備えた池の構造です



後世に伝えるために2018・11・8
に石碑が建立されました。



11. 山ノ神製陶遺跡

667年近江国大津へと遷都しました。これを契機に瀬田丘陵では奈良時代に至るまで、その豊かな森林資源を基にして須恵器や鉄作りが盛んに行われるようになりました。山ノ神遺跡は、須恵器や^{しび}嶋尾等の生産遺跡の一つで国指定史跡です。



12. 一里塚跡

旧東海道と瀬田駅前から「学園通り」との「交差点」の位置にある。徳川幕府が五街道を整備したとき、一里（約4km）毎に旅人の道標を示すものとして小高い丘に松や榎が植えられた。東に草津矢倉、西に鳥居川付近にいたる。

江戸から133番目です。

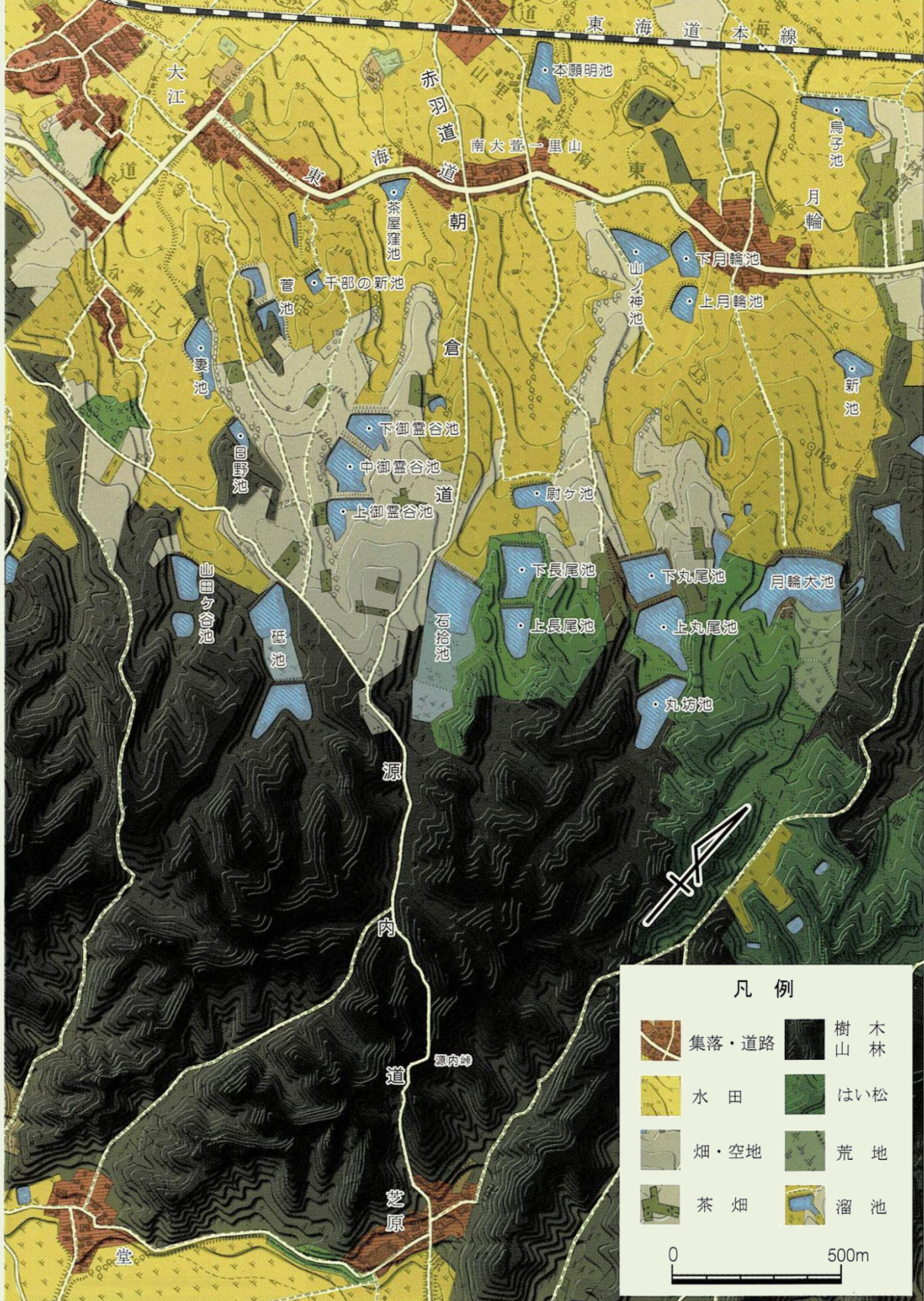


旧東海道の街並み



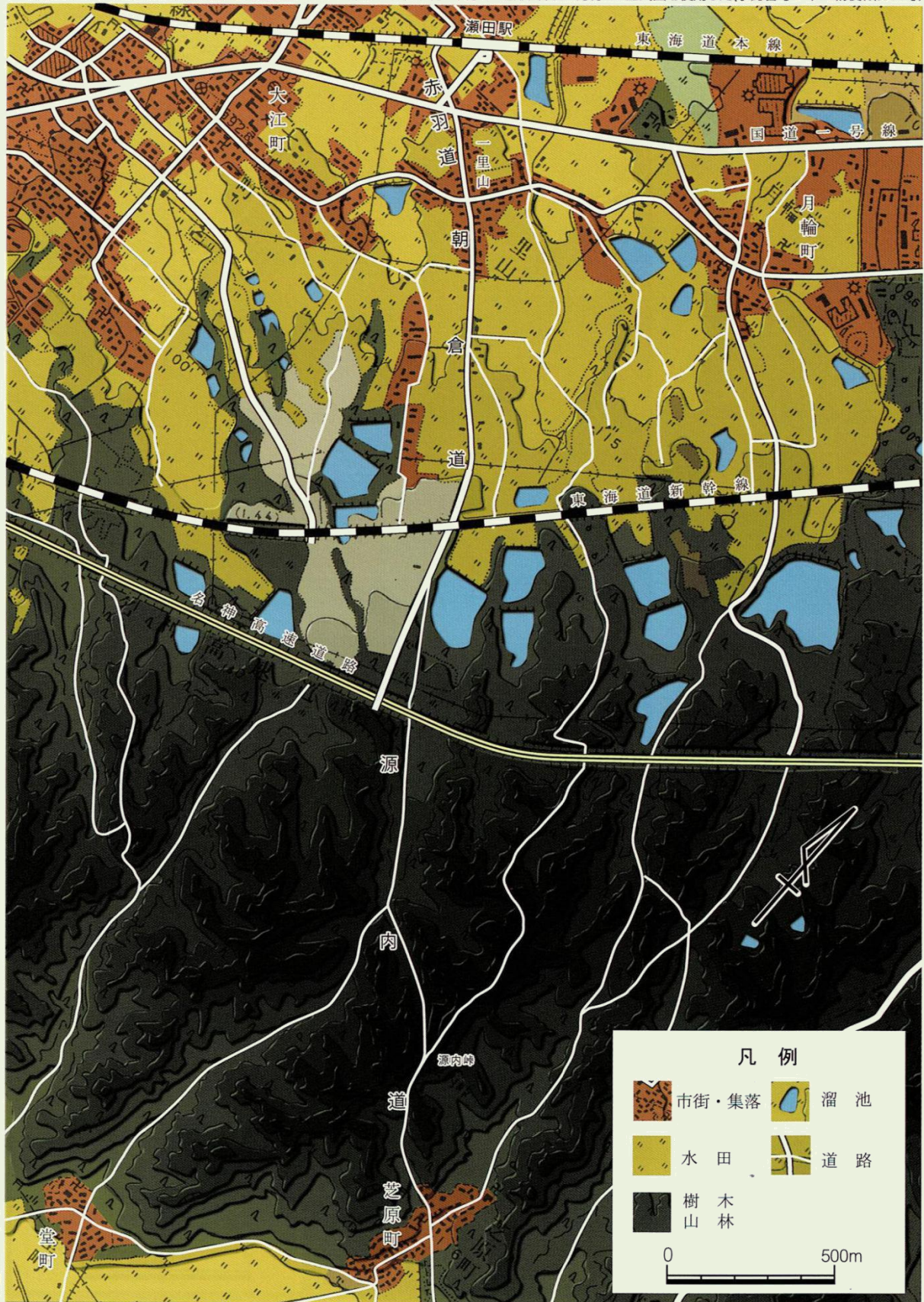
東海道五十三次 133番目の一里塚跡

無断複写を禁止します。第三者がこの地図を複製又は使用するときは国土地理院長の承認が必要です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図及び2万分の1正式図を使用した(承認番号 平24情使、第330号)



明治25年(1892)年の瀬田の景観 (陸地測量部正式二万分の一地形図「瀬田」<明治25年測図>を使用)

無断複写を禁止します。第三者がこの地図を複製又は使用するときは国土地理院長の承認が必要です。
 この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図及び2万分の1正式図を使用した(承認番号 平24情使、第330号)



昭和45年(1970)年の瀬田の景観 (国土地理院二万五千分の一地形図「瀬田」<昭和46年改測>を使用)



- 推奨コース**
1. JR 瀬田駅-八坂神社-立場跡-月輪寺-超明寺-新福寺-月輪大池-月輪大池前 (近江バス) =計徒歩約 7 k m
 2. JR 瀬田駅-一里塚跡-長澤川桜並木-山ノ神遺跡-石拾池-源内峠遺跡-源内道-県埋蔵文化センター-美術館-ホレオ (ショッピングセンター)-瀬田公園前 (近江・帝産バス) =計徒歩約 5 k m



大津市協働提案制度（テーマ型提案事業）

大津市産業観光部（観光振興課）

大津市教育委員会（文化財保護課）

大津市瀬田東文化振興会

発行所：大津市瀬田東文化振興会

大津市一里山3丁目16-1 大津市瀬田東公民館内

編集者：松田文男

発行責任者：松田文男